

ご参考：花の文化園福祉花壇の手引き

花の文化園福祉花壇のコーナーによるこそ。

「なぜ人は ” みどり ” でやすらぐか」

みどりの中での活動は、みどりのない場所での活動に比べて、血圧やストレスホルモンが減少することが判明しています。また、体内の免疫力が強化されるなど、高齢者の予防医学の視点からもみどりの役割が問い直されようとしています。

英国では、高齢者のこころの安らぐ環境をつくるには、2つの方法があると考えられています。ひとつは、つくった空間を「鑑賞」することによってこころが休まる方法、もうひとつは「参加し、自ら行動」することによってこころの充実を得る方法です。そして、そのこころの安らぎに大きな効用を持っているとされているのが、花や緑です。

ガーデニングとヒーリング（園芸活動と癒し）

高度情報化社会が進むと、脳の中で情報を処理する行為が要求されますが、自然の生き物である草花を相手にするときは、処理を要求されることもなく、必要な場合であってもそれに伴うストレスがほとんどありません。

ガーデニングブームは、ヒーリングすなわち「癒し」を求めている私たちの暮らしに、「園芸活動」が見事に適応したことから生まれたものだといわれています。

花の文化園の福祉花壇 について

平成13年3月20日（火・祝）に、花の文化園にも、（財）黒田緑化事業団からの寄贈による、車いすに乗ったたままでも園芸を楽しめる福祉花壇が完成しました。

現在は年4回の植え替えの際、ボランティアによりご来園のお客様に当園の福祉花壇をご紹介します。障害者のための園芸道具なども使っていただいて、ご一緒に二基の高床式花壇の植え付け「車椅子に乗って花を植えたり手入れをする体験のPRイベント」として、福祉花壇植え付けデモンストレーションを行っています。

高床式花壇=レイズドベッドとは、植栽面をテーブルの高さに持ち上げるため、作業がしやすく車椅子の方にも園芸を楽しんでいただける花壇のことです。

花壇中央部は、車椅子では右手が届かない部分ですが、モニュメントとしてみるのを楽しんでいただけるように植栽を工夫しています。

園芸福祉のための留意事項

園芸を福祉に役立てるためには、**ユニバーサルデザイン**という概念が必要となります。これは、「世の中に必要なデザインは特定の人々のデザインではなく、誰でもが使えるデザインである」という考えです。

一方、植物が持つ癒しの力が十分に発揮できるための配慮も必要であり、このことから以下の事項に留意する必要があります。

植物の選択 育てやすいもの、季節感の楽しめるもの、五感を刺激するもの、病害虫に強いもの、切り花やクラフトに使えるもの、身近で思い出のあるもの、毒やアレルギーのないもの、種が大きくまきやすいもの、など園芸への趣味に合わせて選択する。注意が必要な植物

作業内容の選択 栽培、収穫、クラフト作成など幅広い作業を組み合わせる通年作業にする。体力と集中力に合わせて作業時間を決める。

道具の選択 対象者が使いやすいように身近なものを工夫したり、道具を改良したりする。その人が自宅に帰ってもできるように、生活の中で慣れ親しんだ手軽なものを使うことが望ましい。

環境の整備 車いすで近づきやすい高さの花壇を作る。移動しやすいように手すりやスロープを設ける。利用しやすいトイレや手洗いを近くに設ける。寝ころんで作業ができるようにマットを敷く。点字表示をつける。休憩のためのベンチを設けるなど。

参考文献

「安らぎと緑の公園づくり」（浅野房世・三宅祥介 鹿島出版社）、
「緊急雇用対策農林技術センター福祉的活用推進委託事業報告書」
（大阪府環境農林水産部）

日本園芸福祉普及協会 資料（NPO法人日本園芸福祉普及協会
会長進士五十八東京農業大学学長）

「大泉緑地ふれあいの庭見学と障害者体験（講習会資料）」

「園芸療法実践のためのガイド」（財団法人日本緑化センター）
園芸療法研究会西日本の資料

兵庫県立淡路景観園芸学校 のパンフレット

※ 花の文化園図書室に
園芸福祉図書のコーナー
があります